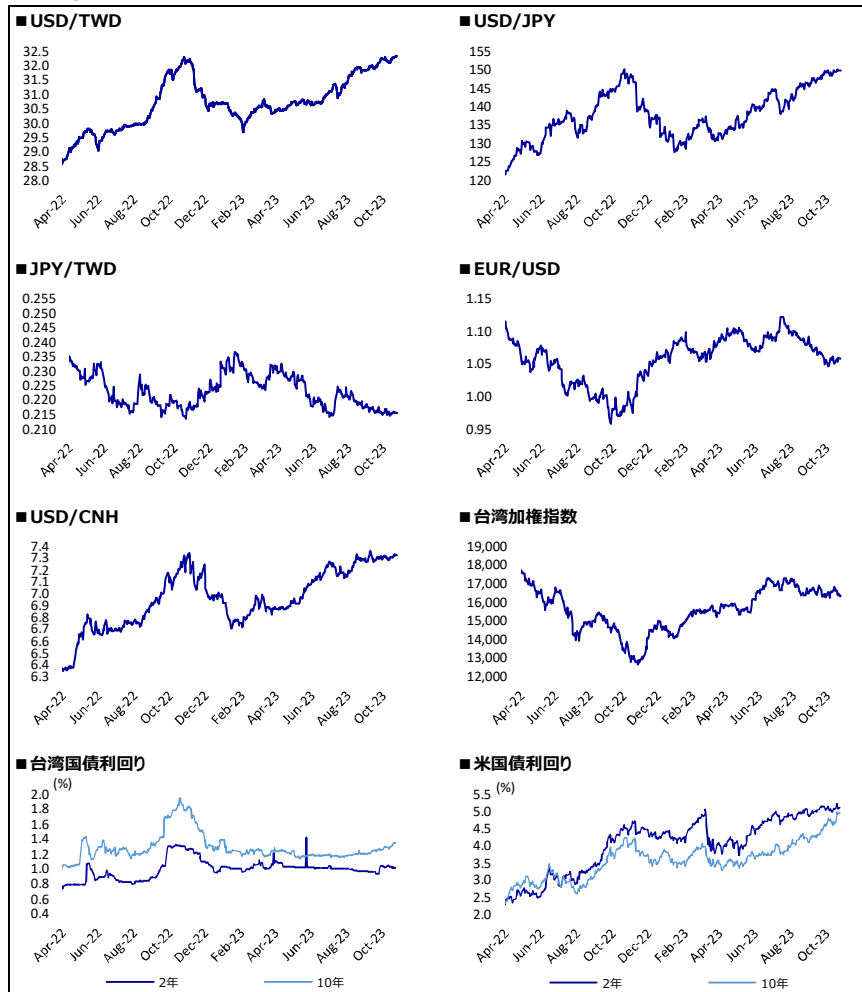


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初10/16は32.230でオープン後、中東における地政学リスクが高まり、台湾株が売られる中、台湾ドル売りが優勢に。輸出企業によるドル売りの動きが上値を押さえ、32.30手前で揉み合う展開。10/17は堅調な米国株の値動きを背景に一時台湾ドル高となるも、台湾株が下落に転じると台湾ドル売りが優勢に。その後上値を押さえる動きが見られ、上げ幅を縮小した。10/18は前日米9月小売売上高が市場予想を大幅に上回ったことで米金利が上昇し、ドル買いが優勢に。しかし2017年1月と2022年10月にサポートとなった32.40を目前に上値を押さえる動きが強くなり、32.290まで戻した。10/19は米10年金利が高値を更新した他、海外投資家による台湾株売りが見られたことで、台湾ドル売りが優勢となり、一時32.38まで上昇。その後輸出企業によるドル売りや、節目を意識した上値を押さえる動きから上値重く推移。10/20は前日のパウエル議長からのタカ派な発言を受けて米10年金利が2007年7月以来のハイを更新し5%に達しドル買いが優勢となるも、32.4の節目を目前に再度上値を強く押さえる動きが見られ、台湾ドルが買い戻される展開。最終的には前週比0.3%ドル高台湾ドル安の32.320で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は492.9億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初10/16は149.45でオープン後、米金利が上昇する中、ドル買いが優勢となり149.9円台後半で推移。10/17は「日銀の24年物価見通しが上方修正の公算」との報道から一時急落し148.75まで下落したが、米9月小売売上高が堅調な結果となったことからドルが買い戻され149.7を挟み揉み合う展開。10/18は日本10年国債利回りが0.819%まで上昇したことを受け日銀による臨時国債買い入れがアナウンスされると円売りが優勢となり、149.80台まで上昇。10/19は日9月貿易収支が黒字化していたことが好感された他、為替介入への警戒感から上値重く推移。その後パウエル議長から追加利上げにオープンな姿勢が示されると下げ幅を縮小し、149.80台まで戻した。10/20は米10年金利が5%に到達する中、ドル買いの動きが加速し一時150.00まで上昇。しかし為替介入への警戒感根強く、その後は上値重く推移。最終的には前週比0.2%ドル高円安149.87で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：32.250-32.450
今週は上昇を見込む。今週発表を控える米国第三四半期GDPは米国アトランタ連銀の推計では5.4%に達することが見込まれており、米経済の堅調さが再確認された場合、米金利の一段の上昇やドル高が進む展開が見込まれるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：149.50-151.00
今週は上昇を見込む。今週は米第三四半期GDPや米9月PCEなど重要指標の発表を控えており、堅調な結果となった場合は10/31の日銀金融政策決定会合を前にドル円の上値を試す展開となるであろう。

今週の予定

10/23 (MON)	台湾9月製造業生産、台湾9月失業率
10/24 (TUE)	台湾9月マネーサプライ、米10月PMI景況感指数、米10月リッチモンド連銀景況観指数
10/25 (WED)	
10/26 (THU)	米9月耐久財受注、米第三四半期GDP
10/27 (FRI)	米9月PCE

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。